

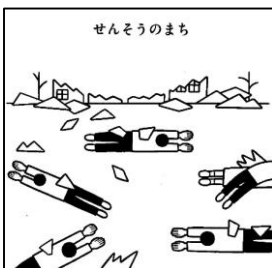
5月の学習会に、親と一緒に来てくれた子どもたちに家で読んで、思うこと聞かせてとお願いしました。

- ・平和の雲はいつもの雲だけれど、戦争の雲は爆発したみたいで、近くにいた人はちょっと心配。
- ・平和のまちはみんなげんきそうにしているけれど、戦争のまちは全員倒れているから大丈夫かなあと思った。
- ・戦争の母は、子どもがいるから守らないと思って、強くギュッとして助けようと思っている気持ちが伝わってきた。子どももこわそうな顔している。逃げようと思っている気持ちが伝わってきた。
- ・平和のぼくは、げんきいっぱい遊んだりしてそうやけど、戦争のぼくは初めて戦争を聞いて、逃げるにはこわいなあと思って、座ってかなしい顔になっていると心に伝わってきた。*りお（7歳）

- ・敵の赤ちゃんとみかたの赤ちゃん、どっちかわからなかった。
- ・平和の父と戦争の父、どっちが悪いのか、どっちが優しいのか。
- ・戦争の家族、ばらばらやし悪いと思う。
- ・戦争の木は折れて、もうリンゴが食べれないと思う。
- ・平和のぼくと戦争のぼくは、どっちが元気か？元気な方は遊べるけど悲しい方は遊べない。*せら（5歳）



読んでいるとこわくなった。せんそうのまちの絵がこわかった。せんそうの雲もいつも見ている雲とちがった。途中で、こわくなって涙が出て、本をよむのをやめました。町でたくさんの人々が亡くなっているのがいやでこわかった。へいわはみんなが喜んでいるけど、せんそうはとても辛いこと。せんそうはイヤ。ウクライナとロシアのせんそうも早く終わってほしい。子どもも大人もたくさんの辛い経験や辛い人を見たり、亡くなった人を見たり、くるしい気持ちになっている。早くせんそうを終わらせてほしい。*りな（5年）



へいわはみんなが楽しく過ごせる場所。せんそうは、みんなが鉄砲を持って立ち向かって人を撃ったり撃たれたりする繰り返りで悲しいこと。「人が亡くなるんやで。お葬式で最後のお別れをできないんやで」*ふうな（3年）

2～3年前にこの本を読んだ時と、今回読んだ時と大きく違っていたこと。ロシアとウクライナの戦争を報道で見ている子どもたち。絵本と現実がリンクしていて「こわい」という気持ちなどがすぐに出ていたように感じました。*ますみつ



たにがわしゅんたろう ぶん
Noritake E
ブロンズ新社
*本の中のぶんとえを引用



6月26日公益社団法人子ども情報研究センターの総会に続き、各事業部門紹介がありました。共同子育て連絡会は「子育て」は、子どもという生活そのもの「子育て支援」もごく自然な「子育て」の周りの取り組み「子育て支援」というより「子育ての共同化」と発信したい誰にでもある「生きる力」を支えるのは、共に生きる関係からであると、改めて考えました。



フヨウ

倫理綱領学習会 Part 3 は、7月30日にきらぼか広場で実施しました。報告は、共同子育て連絡会通信『4号』に記載する予定です。

一時保育が社会を変える？！

一時保育といえば、**保育部ももぐみ**です。2007年以来、おとなが受講する講座に一時保育を付ける「保育付き講座」ではなく、子どもも主体的に参加する「講座付き保育」をと発信しています。子ども一人ひとりの声を聴き、子どもの人権を大切に、その場にいる人が、互いを尊重する関係を紡いでいこうと活動しています。

その場にいる人とは、依頼者・子ども・保護者・担い手でしょうか。依頼者と一緒に、子どもが自由に動けるよう、子どもが楽しく遊べるようにと打ち合わせ、準備しています。当日は、今のその子の気持ちを感じながら、子どもの好きなあそびを通して出会っています。講座を受講された保護者から、講座の感想を聴かせてもらえる時もあります。また、「講座付き保育」の考えをもとに、「見合いっこ保育」とし、保護者が交替で保育を担ってみる取り組みも定着してきました。

- 課題は常にあります。直近のミーティングで考えたのは2点です。
- ①保護者が書いた子どもの特徴を、子どもの荷物のところに置いていた。字が読める子どもだったので、いやな気持ちを感じたかもしれない。今後はマスキングテープを貼って、配慮していこう。
 - ②同じ市で、違う3つの課から、別々に依頼があった。地元の保育スタッフはいないのだろうか？育成講座を提案したいね。どこの機関に提案したらいいのだろうかなどと話しあっています。

*中面には、今年誕生した一時預かり事業について載せています。



ハス

○日の子どもたち

- A：5日目（1歳児）
- B：1日目（1歳児）
- C：5日目（0歳児）
- D：6日目（1歳児）
- E：4日目（2歳児）

受け入れ

今日も暑いね。七夕だから、いただいた笹玄関に下ろすね。折り紙にのりペタペタ楽しかったね。今日は寒天用意しているよ。9時前～ピンポン
順に1階玄関で親と離れて2階へ。
「車で遊んでおいで」「あとで迎えに来るからね」と、保護者は子どもの背中を押してくれます。
これまであまり泣かなかったEが...

↓

一時預かり事業申請の説明会冒頭、「この事業は儲かるというものではありません。空きスペースで、在宅で子育てする保護者の育児負担軽減に対応し、児童福祉の向上を図ることを目的にする事業です」と話されました。同席している説明会参加者の質疑応答を聞きながら、一時預かりを依頼する子どもや親のこと知ってるの？と、不安やもやもやが増したので申請は見送りました。

しかし、地域の中では、コロナ感染に関わる育児不安の声が益々増える一方です。半年後、もう一度説明会に参加しました。今度は大きな保育所の空き部屋を利用して実施しようとする保育士さん2人と、新しい担当職員との会となりました。担当は「移動してきたばかりで即答はできませんが、どんなことでも聞いてほしいし、いろいろ現状を教えてほしい」と話されましたので決心しました。

改めて、「なぜ始めたのか？」と聞かれたら、**一時保育が社会を変える**と本気で思っているからだと言いたいです。どう変えたい？！

子どもを預けるのが当たりまえの社会になってほしい。

子どもは、いろいろな人の中で育ちあう力があると感じたい。

登録者は、7月初めに50人、その内3分の1は、まだ1度も利用されていません。

しかし、登録に来てやりとりすることに30分の時間を費やしていますので、その時間を経験していただくだけでも、日々の子育てに風が通ったのではと感じています。

△日の子どもたち

- A：8日目（1歳児）
- B：9日目（1歳児）
- C：3日目（2歳児）
- D：7日目（0歳児）
- E：2日目（2歳児）
- F：2日目（2歳児）

氷あそび

大きめの洗面器に、製氷器の氷を入れ、おもちゃのお玉でガラガラまぜまぜ。ガラガラの音が部屋に響くと、何々と、寄ってきます。カップに入れたり出したり冷たいね。袋に入れて、ちゃぽ。溶けた水に食紅混ぜてわあ～じゃ～紙と筆、指、手でトントンぴちゃぴちゃと、おとも楽しい！

昼食

弁当持参で、食べることを楽しみます。黙々と食べ、静かなひとときです。アレルギーのある子どもは、座る位置に配慮します。のどに詰めないように細かくし、口に入れすぎないように声をかけ、かみかみ、もぐもぐ、おいしいね～

午睡

慣れた子どもが増えてくると、落ち着いた時間になっています。寝ない子もいます。抱っこでうとうと、ぐずぐずからの抱っこ、お家でもゴロリを嫌がり座って寝ています～の子どもにも出会いました。

午睡後おやつを食べて、遊んで帰る 週1～2回の利用が増えてきました。



ジャカランタの残り花

大阪市長居公園で撮影

今日はどうして泣いているのかな

Eは分離のとき、これまでは泣いてもすぐに遊びだすけれど、今日は座り込んで荷物を出すことも拒否して抵抗します。慣れてきて、よけいに嫌なのかな。おやつもいらないと、訴えます。朝から暑く熱中症も心配。もっとお茶飲んでほしいなあ。涼しいお部屋で遊んでほしいなあ・・・
大好きな恐竜を風船の上にのせて落とすと少し笑顔。ミニテーブルを運んでもらって、おやつを少し食べました。恐竜を並べると少しずつ・・・立ち上がり、動き回り始めます！
そばで付きあえてよかった～
昼食の時、鼻がつまって咳も出て、食べにくそうやったけど完食。食欲もあってよかった～と思うのです。

子どもは全身で泣いています。
「ママいない」と確かめるように声にする子。部屋の中をぐるぐる回る子などいろいろです。何かで気持ちが落ち着くのを気長に待ちます。抱っこしたら、おやつを食べたら、好きなおもちゃがみつかったら、お水を触ったら・・・あっそうだったのと、切り替わるポイントも子どもによっていろいろ。子どもが安心する環境も、その子によって違います。3歳のTがうるっとしたとき、抱きしめて「いっぱい泣いていいよ」と言っていると、少し離れて声を出して泣きます。少しすると「もう、おわった」と笑顔で遊び始めました。

子育て温泉ねっこ スタッフ一同

おとも子どもも頑張りすぎないで

子ども・保護者・保育者が、互いの安心を保障できるようにしたいです。午睡の時に泣き出す子は別室へ移動したり、泣きすぎて水分も拒否する場合は早いお迎えをお願いし、おとなは気持ちしがしんくなる前に、腰が痛くなる前にSOSを出しあいたい。
誰かの泣き声が、ほかの子どもを不安にさせたかと反省するときもあります。泣いている子によしよしする子どもや、つられ泣きして当たり前との保護者の受け止めに感謝する日々です。『子どもの泣く』を無理に気をそらして泣き止まさせても、いっぱい気持ちを表現してねって思います。何かあったらそばにいるから言ってねと思います。自分の手腕で子どもがどうにかなるなんて思わない、思えないです。